

文章の要旨をえらぼう

小6／文章を読んで、筆者の主張（要旨）としてもっとも適切なものを1つ選びましょう

なまえ _____

ひづけ _____

1 縄文時代のくらしを よんで、この文章の要旨として、もっとも適切なものを1つ選びましょう。

縄文時代の人々にとって、クリの木は実を食べるためのものだった、と考えられてきた。ところが、青森県にある大きな集落のあとでは、家や大きな建物の柱に、太いクリの木が使われていたことが分かった。まわりにはクリの林が育てられていたらしい。縄文の人々は、クリを食べ物としてだけでなく、建物をつくる木材としても育てていたのだ。

- 1 縄文の人々は、野山のクリを拾い集めて、冬の食べ物をたくわえていた。
- 2 縄文の人々は、野山のクリを拾い集めて、柱にする木材を手に入れていた。
- 3 縄文の人々は、クリの林を育てて、柱にする木材を手に入れていた。
- 4 縄文の人々は、クリの林を育てて、冬の食べ物をたくわえていた。

2 心臓を よんで、この文章の要旨として、もっとも適切なものを1つ選びましょう。

体を動かすとき、脳が手や足の筋肉に命令を出す。では、心臓も脳の命令で動いているのだろうか。実は、心臓には自分で動くしくみがあり、ねむっているときも、脳からの命令を待たずに、規則正しく動き続ける。脳からの知らせが関わるのは、動く速さを変えるときなのである。

- 1 心臓は、脳の命令を待たずに自分で動くことができる。
- 2 心臓は、運動をすると動く速さがだんだん上がっていく。
- 3 心臓は、全身に血液を送り出すポンプの役目をする。
- 4 心臓は、脳の命令を受けて一回ずつ動いている。

3 言葉の使い方を よんで、この文章の要旨として、もっとも適切なものを1つ選びましょう。

「全然」は、「全然おいしくない」のように、打ち消しの言葉といっしょに使うのが正しいと言われることがある。けれど、明治時代の小説には、打ち消しのない「全然」の使い方も見られる。今「正しい」とされる言葉の使い方も、時代とともに移り変わってきたものののだ。

- 1 言葉は、正しい使い方を守って使うことが大切だ。
- 2 言葉の正しい使い方は、話す相手によって変わるものだ。
- 3 言葉の正しい使い方は、地方によってまちがっている。
- 4 言葉の正しい使い方は、時代によって変わってきた。

4 町の祭りを よんで、この文章の要旨として、もっとも適切なものを1つ選びましょう。

わたしの町の祭りは、子どもの数がへり、みこしをかつぐ人が足りなくなっていた。思い切って、小さな子ども用のみこしを作ってみた。すると、それを見に来る親子が多くなり、通りは前よりにぎやかになった。けれど、かつぐ人はやはり足りず、大人のみこしは今年も車にのせて運んだ。

- 1 祭りは、形を変えて新しくすると、かつぐ人がふえる。
- 2 祭りは、形を変えて新しくすると、見る人がふえる。
- 3 祭りは、昔のやり方を守り通すと、かつぐ人がふえる。
- 4 祭りは、昔のやり方を守り通すと、見る人がふえる。